

## 第7回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<高校の部 優秀賞>

「将来像とその実現に向けて」

森川みなみ

「いつかニュース番組で生き活きとした顔で働いているのを見るのが楽しみだ」。中学最後の学級通信の私宛てのメッセージ。私がニュースキャスターになりたいと思い始めたのは中学校一年生の時です。漠然と私はこのままキャスターを目指していくのだろうと思っていたのです。そんな風に夢ともいえないような目標を掲げて中学の卒業式を迎えたその日、あの恐ろしい災害が起こったのです。東日本大震災。いつも見ているニュースも何だか殺伐としていて、どこか現実味を帯びなかったのは私だけではなかった筈です。そんな中、私はある一つの記事を見つけました。「命の限り叫び続けた、防災放送の女性職員、安否不明」。内容は私の想像を逸するもので、避難しなければ助からないと分かってもなお町民のために津波の来襲を伝え、避難勧告を続けたたった一人の女性のことでした。いったいどれだけの人が彼女の放送によって助かったのだろう、と考えました。避難所で彼女への感謝を述べる人も少なくありませんでした。私はそこで“伝える”ことの真髄を見た気がするのです。その後の震災ドキュメンタリー番組で私はまた心を打たれました。「風化させていい戦争も、災害も、事件も何一つありません。その傷みを忘れずに、目を背けずに“伝える”ことが我々報道陣の仕事なのです。」

あの日からもう一度走り始めた私の目標は本当の意味で“伝える”こと。喜びも悲しみも全部、私自身の言葉で。その為に今の私ができることといたら、あまり多くはありません。沢山勉強して、周りの事柄に広くアンテナを張って、なにより人々の心に敏感になること。決して大それた事ではないけれど、それが積み重なって初めて私は高い目標に手を掛けることができるのです。簡単に達成できる夢ではないからこそ、小さな一歩を大切にしていこうと思います。